

# 第 1 章

## ホスピス・緩和ケアの精神

### <ホスピス・緩和ケアとは>

緩和ケアの対象は、「がんとエイズ」だけでなく、重症障がい（児）者、進行性の慢性疾患（神経難病・慢性肺疾患・慢性心疾患・代謝性疾患）、認知症の高齢者など広い領域に及んでいる。「こころ・と・からだ」の支えを必要としている人との心温まる交流、ホスピスマインドが緩和ケアの神髄であり、いつでも、どこでも、医療・福祉・日常生活のあらゆる分野で共通する「思いやり」の気持ちと行為である。

ホスピスの起源「中世ヨーロッパの聖地巡礼者など旅に疲れた人たちや病人に対する修道女たちの手厚いもてなし」は、ホスピスマインドの原点として、現在まで受け継がれている。

ホスピスという言葉は、ホスピスケアを提供するための施設を指す場合と、個々の患者・家族の状態・状況に応じたケアを提供する一連のプログラムを指す場合とがある。

### A ホスピスの起源

#### <語源>

- ホスピス hospice はラテン語の hospes に由来する

hospes = 客を迎える主人/客/見知らぬ人

hospitium = 見知らぬ人を厚遇すること、丁寧なこと/接待/宿

hospitalis = 手厚いもてなし

hospitality(英) = 手厚いもてなし、看護にあたる聖職者の無私の献身と  
歓待

hospital(英) = 病院

● palliative care (緩和ケア) の palliate (和らげる)

pallium = 暖かく人を包みこむマントやコート

マントで包むようにしてあたたかくして和らげること

<古代・中世のホスピス>

542年 フランスのリヨンにオテル・デュー (Hôtel Dieu 神の宿) が設立された。

中世に入ってから主要な町、都市の修道院では修道士たちの手によって旅の途中で倒れた巡礼者や貧しい人々を助ける活動が行われた。=ホスピスの原型

1443年 ブルゴーニュ大公国の大法官ニコラ・ロラン Nicolas Rolin 夫妻が、すべての人々に治療ができるよう、私財を投じてボーンにホスピス・ド・ボーン (オテル・デュー) を設立し、領主達の寄付もあり治療費が無料で運営された。

1534年 オピタル・ド・ラ・シャリテ Hôpital de la charité (救貧院) 設立。

1802年 オテル・デューとオピタル・ド・ラ・シャリテが合併し、「市民ホスピス」Des Hospices Civilis とよばれるようになった。

ホスピスの起源は古く、およそ2000年前のローマ帝国に存在していた。「疲れた巡礼のための憩いの家」=誰でも食物と宿をあたえられるが、とくに病気の者は、手当てをしてもらい、治らないときは、死ぬまでやさしく世話を受けた。

その精神はマタイによる福音書25章34-40節(起源60~85年頃)にあるとされる。「さあ、わたしの父に祝福された者たち、世の基礎が据えられて以来あなた方のために備えられていた王国を受け継ぎなさい。わたしが飢えると食べ物を与え、わたしが渇くと飲み物を与え、よそから来ると宿を貸し、裸でいると服を着せ、病気でいると見舞い、ろうやにいと来てくれたからだ」。

中世ヨーロッパでは修道院、主要な町、都市にホスピスがあり、瀕死の病人、旅人、孤児が受け入れられた。さらに十字軍の遠征がきっかけになって更に多くのホスピスのような施設が建造された。しかし宗教改革や産業革命

により多くの施設が閉鎖された。

### <近代・現代のホスピス<sup>1)</sup>>

- 1834年 アイルランドのダブリンにセント・ビンセント病院が建設された。
- 1879年 ダブリンに聖母ホスピス「死にゆく人々のためのホスピス＝ホーム Home」が建設された。
- 1884年 オーストラリアに「聖心ホスピス」が設立された。
- 1905年 ロンドンにセント・ジョセフ・ホスピスが設立された。
- 1952年 マザー・テレサがカルカッタにホスピス「死を待つ人々の家」を設立。
- 1958年 シシリー・ソンドースがセント・ジョセフ・ホスピスに勤務。
- 1967年 シシリー・ソンドースがロンドンにセント・クリストファー・ホスピスを創設。
- 1969年 エリザベス・キューブラー・ロス「死ぬ瞬間－死にゆく人々との対話」出版
- 1974年 アメリカ初のホスピスが設立された。

## 1. 近代ホスピスの母 マザー・メアリ・エイケンヘッド (1787～1858年) (図1-1)

18世紀末、アイルランドはイギリスの植民地で、プロテスタントによる弾圧により貧困、飢え、病があふれていた。生活は貧しく、居場所を失い、死期を迎えても、温かな部屋で家族で看取ることすら困難な人びとがいた。

近代ホスピスの母、修道女マザー・メアリ・エイケンヘッドは、Irish Sister of Charity を創設 (1815年) し、居場所を失った人々たちのため、塙の中の修道院ではなく、塙の外で活動を始めた。貧しい人々、病める人々を対象として、「最後の時に人間らしい、温かなベッドと優しいケアを」と願い、「ホーム」とよばれる安息の場を提供した。このように、19世紀-アイルランド・ダブリンで修道女によって死にゆく人々への慰めと安らぎを与えるケアが始められた。

エイケンヘッドの死から20年後、彼女の遺志を継いで、ダブリンに「聖



図 1-1 マザー・メアリ・エイケンヘッド

母ホスピス」がつくられ、近代ホスピスの基となった。さらに彼女の志を継いだ修道女たちは、ロンドンのセント・ジョセフ・ホスピス（1905年）をはじめ、オーストラリアやスコットランドなど各地に次々とホスピスを設立し、ホスピス運動の先駆けとなった。

## 2. 現代ホスピスの母 シシリー・ソンドース (Dame Cicely Mary Strode Saunders 1918～2005年)

第2次世界大戦時、志願して看護師になったシシリー・ソンドースは、戦後、腰痛のためソーシャルワーカーに転身し、初めて受け持った末期患者デビット・タマスという男性と恋に落ちる。彼の死を機に、死にゆく人がどうやったら安らぎを覚えられるかを考え、死にゆく人のために仕事がしたいと決意、33歳で医師になった。セント・ジョセフ・ホスピスでホスピスの神髄を学び、1967年、49歳の時にロンドン郊外にセント・クリストファー・ホスピス (St.Christpher's Hospis) を創設、ここを起点にホスピス運動がさ

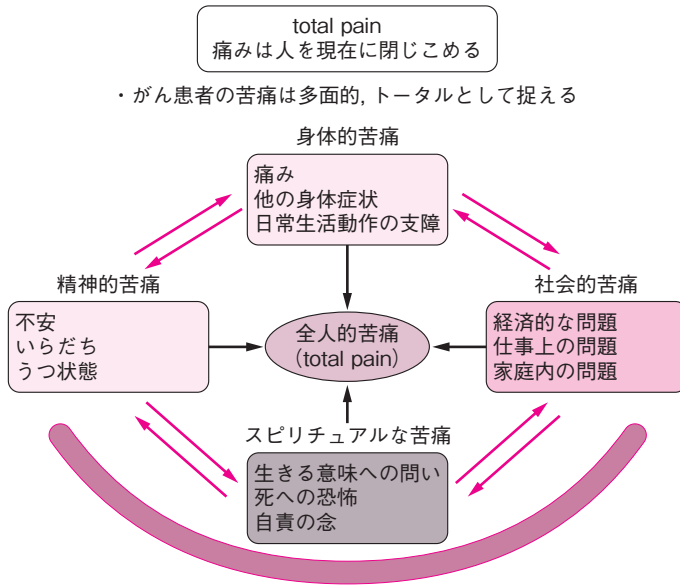


図 1-2 全人的苦痛 (total pain)

らに世界中に広がった。

この間、「聖ルカ」という死にゆく人のための施設（ホームであり，病院ではない）で学んだ「医療用麻薬を経口で定期的に与えるという方法」を，セント・ジョセフ・ホスピスの末期がん患者に導入し，身体的な痛みをコントロールする方法を確立した。

しかし，身体的な痛みは取り除くことができても心理面や社会面の痛みが残り，全人的苦痛 (total pain) (図 1-2) としてとらえるべきであるとした。また，死を望む患者が「生きたい」と思えるような「ケアのコミュニティ」をその周りに作りだすことの必要性を主張した。

### 3. ホスピスムーブメント<sup>2)</sup>

19 世紀に，イギリス，フランス，アメリカで「ホスピス」とよばれるケアがさまざまな形で始まった。